

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3292200049		
法人名	社会福祉法人 高田会		
事業所名	隠岐の島町認知症高齢者グループホームみのりの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町都万2472-3		
自己評価作成日	令和1年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和1年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分らしく毎日を楽しんで暮らせるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を踏まえ利用者一人ひとりのペースを尊重した対応を心がけ、職員会議や日々のミーティングで話し合いを重ねて利用者が楽しみながら暮らせるよう支援している。地域の行事に積極的に参加したり、作品を出展している。一人で出かける利用者には声かけや見守り、連絡をもらうなど地域の人の協力がある。役場主催の地域の交流会に参加して他の職種や関係者と交流する機会があり、事業所の取り組みを伝えたり情報交換をしてさらに地域との良好な関係を築くよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会、ミーティング時にその人らしく出来る事を話し合って援助するように心がけている。	一人ひとりのペースを尊重し、その人らしい暮らしとなるよう職員会やミーティングで話し合いを重ね実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント(文化祭等)に参加するようになっている。地域の方のボランティアで三味線持参され利用者様と楽しく歌や踊りを楽しむことあり。	地域の行事やイベントに参加して知り合いと会ったり、ボランティアの来訪があり交流している。利用者が一人で外出する際には声かけや見守りの協力があり地域との繋がりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流会あり参加して事業所の説明をしたり、話しを地域の人との交流に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員よりイベントの紹介あり文化祭に向いた。また、周囲の木の剪定を利用者家族の方にして頂いた。	利用者の様子や事業所の取り組みを伝え意見交換をしている。イベントの情報をもらい利用者と共に参加して交流に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加している方より、防災の情報を得る事あった。	運営推進会議で情報を伝えたり、役場主催の地域交流会に参加して情報交換を行い協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の身体拘束の研修会に参加し参加者が職員会で内容を発表したり、事業所のマニュアルを読み合わせて、話しあって日々の業務に実践している。	研修会に参加して皆で話し合いマニュアルを確認している。転倒の危険のある人には家族の了解を得てメロディーセンサーの使用や、一人で外出する人には地域の協力もあり見守りながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止の研修会に参加し職員会で参加者が発表し話し合い検討し日々の業務実践を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権擁護研修会に参加し参加者が職員会で発表し検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に利用者家族に説明し理解していただき署名捺印をもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に重要事項説明書の中の苦情の受付のある事説明している。また、家族の面会時には日ごろの状態を説明し要望等を聞き取り支援している。	面会時に日頃の様子を伝えたり、話を聞く機会を持ち要望をケアに活かせるように支援している。遠方の人には電話や便りで伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日頃のミーティングに職員からの意見や提案が出る場面を作って検討し実践している。	管理者は業務を一緒に行っていて日頃から意見を聞く機会があり、利用者のケアや業務改善など職員会やミーティングで話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と面談をし勤務の状況や職場の様子を一人一人から聞き取り事業所が継続できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、外に研修の案内があり、参加可能なものには声掛けをして研修を受けて貰っている。後日、研修報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老人福祉施設研修会のGHの部会に入り、研修会時参加の折には交流あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み後、自宅や病院に訪問して本人家族に面会して、要望や困りごとを聴き出し信頼関係がスムーズにいくように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申込み後、自宅や病院に訪問して本人家族に面会して、要望や困りごとを聴き出し信頼関係がスムーズにいくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からの聞き取り又居宅や病院からの情報提供書よりアセスメントをとりケアプランを作りサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の居室を掃除できる方にはモップがけをして貰い職員も一緒に掃除をしている。料理の大根おろし、ネギ切りをして貰ったり、盛り付けをして貰う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会のおりには日ごろの様子を説明している。本人と暫らく過ごして頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に通所していたデイに訪問したり地区の催しものに見学に出かけ知人や親せきの方に合う機会がもてるようにしている。	地域のイベントに参加したり、利用していたデイサービスに出かけるなど知人や親族との交流の機会がある。同じ地区からの利用者があり昔話をしたり日常的に関わり合い安心感に繋がっている人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯干し、たたみや掃除の時間など利用者で出来る方に声掛けをして一緒にして貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所した方の訪問し様子を伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外に散歩しないとストレスが溜まると言い、独りで日に2回は散歩に出ている人のケアプランあり。	表情や仕草を見て対応の仕方を考えて声かけし、一人ひとりの思いの把握に努めている。個別に対応して新たに分かった事もあり情報を共有し検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅より情報提供して貰ったり、家族や本人から聞き取れる事をサービス提供するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を記録したり、職員間で話をして利用者の状態を把握すように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合っケアプラン作成し、日々の生活の中で出来ているのか観察し職員会やミーティングで評価し検討し見直しをしている。	日頃から利用者の状況に合わせて意見を出し合い利用者、家族の要望を確認しながらミーティングや職員会議で話し合い、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌や個人記録、生活シートに記録し申し送りをして職員間で情報共有し実践や見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	独りで散歩される方がおり、地域の方よりその人の情報がよせらる。その為、区長さんに地域の住民の方に説明して貰うように頼みに伺った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方が来られ一緒に歌を唄い、体操をして楽しく踊り出す方がいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	都万診療所に月1回受診に連れていく。隠岐病院通院の方も家族の協力を得て受診している。救急の際には救急車要請し隠岐病院の受診をしている。	地域診療所への定期受診や訪問診療がある。病院への受診は家族の協力もあり適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職正規職員にいる。毎日バイタル測定し変化時には報告して、受診対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院問診票にホームの様子を記入し情報提供している。ホームの連絡先も記入している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院と家族と何度も話し合い、都万診療所にも家族と共に訪れ看取りをする話を今年度は行った。	事業所でできることを説明しながら支援している。家族の思いに沿って関係者と話し合いを重ね、共に看取り支援に取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で年1回救急救命の講習あり2名程順番に研修会に参加して職員は3、4回同じ研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を年2回は行っている。	定期的に避難訓練を実施し振り返りや備蓄品の確認も行っている。今年度は地域の参加はなかったが、災害状況に合わせた避難場所の提案をもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の失敗(失禁)時等、本人のプライドを傷つけないように小さい声で声掛けをして対応している。	一人ひとりを尊重し馴れなれしくし過ぎず、言葉使いや排泄時の声かけなどプライバシーを傷つけないよう配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある質問をし、本人の意向に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩に出たい方は、職員に出入りを伝えてもらい散歩に出掛けている。本人の了承をもらい料理の手伝いをしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師に出張してもらいカットしたり、希望者の方は近くの美容院に行きカットをもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に、食事の盛り付けをもらったり、大根おろし、ネギ切り、味付けなどしてもらっている。配膳も手伝ってもらっている。	食材の下ごしらえや盛り付け、配膳などできる力を活かして一緒に準備している。皆で季節のおやつ作りをして楽しめる機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の少ない方には水分チェックをし、液体の飲み込みの悪い方にはお茶ゼリー等を作り水分として摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の残差がないようウガイ、歯磨きするよう声掛け、自分で出来ない方には介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	決まった時間にトイレ誘導し、ゆっくり座って排泄を促し、ズボンの上げ下ろし等出来る所は本人にもらえるように声掛けをしている。	一人ひとりの力やパターンに合わせた声かけや介助の仕方を工夫している。状態によってパット、おむつ、ポータブルトイレなど使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂取できるようお茶をゼリーを提供したり、施設内を歩くように誘導したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴してもらっている。シャワー浴の方や拒否した時には入浴日をずらして入ってもらえるように支援している。	時間や回数の希望は少ないが、一番風呂が好きな人、シャワーや半身浴など個々の状態に沿った対応をしている。利用者の状況に合わせてタイミングをみながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	エアコンで居室内の温度調節をしている。また眠そうにしていたり、疲れた様子があれば日中でも声掛けをして休息して頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時には連絡ノートに記入し職員は見ている。また個人記録に薬の処方せんを入れており見て貰っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、掃除、洗濯等に意欲的にして下さる方には声掛けをしてしてもらっている。又作品作りに意欲を示される方には一緒に行うよう話しながら勤めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出れる時には一緒に周囲を散歩する。家族の方にドライブに連れて行ってもらう事もあった。	時季に合わせて花見に出かけたり、天候の良い日は周辺の散歩、玄関先やテラスで日光浴をするなど外気に触れる機会を作っている。家族と出かけたり、受診の帰りに食事をしてくれる人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお金の管理をしている人が多いが、個人で持って買物等の支払いをしているかたもいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方は電話を掛ける事もあり、携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をしている。温度湿度計をみて換気を入れたり空調で調節している。居室や壁に季節の飾りをしている。	利用者同士の関係や、気温、光などに考慮して季節に合わせてテーブルや椅子の配置をしている。季節の飾りや利用者の作品がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の椅子に座ったり、畳の所で寛いだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持って来られたり、家からベッドを持って来られたり、家族の方が私物を用意している。	使い慣れた物や家具を持ち込み、利用者の動線を考慮した配置で安全に過ごせるように工夫している。仏壇を置いている人もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、ホール、居室、トイレはバリアフリーになっていて動きやすい導線になっている。		